

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	河内長野市立休日急病診療所運営委員会
2 開催日時	令和5年1月24日(火) 午後1時30分から 午後2時30分まで
3 開催場所	河内長野市立保健センター3階 集団指導室
4 会議の概要	(1) 委員長・副委員長の選任について (2) 患者統計資料報告について (3) 使用薬品について (4) 障害児(者) 歯科診療事業の実施状況について (5) その他
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	0名
7 問い合わせ先	(担当課名) 市民保健部 健康推進課 (内線 146)
8 その他	

*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

令和4年度河内長野市休日急病診療所 運営委員会 会議議事録

○日時 令和5年1月24日(火) 午後1時30分から午後2時30分まで

○場所 河内長野市立保健センター 3階 集団指導室

<案件>

- (1) 委員の選任について
- (2) 患者統計資料報告について
 - ① 月別患者数
 - ② 転送患者数、年末年始患者数
 - ③ 市内・市外別患者数
 - ④ 年齢別患者数、医師判断
 - ⑤ 診療日数・患者数等
 - ⑥ インフルエンザ患者数
 - ⑦ 新型コロナウイルス感染症検査状況
 - ⑧ 【年末年始】新型コロナウイルス感染症検査状況
- (3) 使用薬品について
 - ① 使用薬剤一覧表<単価契約用>
 - ② 休日診療薬品一覧表
 - ③ 廃棄薬リスト
 - ④ 薬局からの報告事項
- (4) 障がい児(者) 歯科診療事業の実施状況について
 - ① 患者統計資料
 - ② 年齢別患者数
- (5) その他

<出席者>

森川 栄司 (休日急病診療所管理医師)
大谷 明久 (河内長野市医師会を代表する者)
西村 拓也 (河内長野市医師会を代表する者)
中西 晴彦 (河内長野市歯科医師会を代表する者)
谷 英樹 (河内長野市歯科医師会を代表する者)
船多 大 (河内長野市薬剤師会を代表する者)
藤山 治 (河内長野市薬剤師会を代表する者)
橋上 和美 (河内長野市議会を代表する者)
浦山 宣之 (河内長野市議会を代表する者)

<欠席者>

山口 竜司（河内長野市医師会を代表する者）

和田 全功（市民保健部 部長）

○傍聴について

傍聴者なし

（１）委員長、副委員長の選任

委員会一任で

委員長 森川 栄司

副委員長 大谷 明久

副委員長 中西 晴彦

副委員長 船多 大

に決定する。

（２）患者統計資料報告について

① 月別患者数について

令和４年度（１２月末まで）患者数は７３１人、診療日数９１日、１日平均８．０人、内訳は、内科６８３人、その他（皮膚科、耳鼻科など）８人、歯科４０人。

令和３年１０月から実施しているコロナ検査を、１年を通して実施。コロナ検査を希望する受診者数が多くなっていることから、令和４年４月から１２月末までの患者数合計が７３１人になっている。

② 転送患者数、年末年始患者数について

令和４年度（１２月末）は３件、令和３年度は年間で１３件。

令和４年度の転送者数が少ない理由は、新型コロナウイルス感染症対応により、患者からの電話連絡の際に症状の確認を詳しく行い、受付の職員が医師に相談し、救急や他の病院を案内することもあるため。

年末年始患者数については、１２月３０日から１月３日までの５日間で、新型コロナウイルス感染症による影響により令和４年度は令和３年度に比べ、２２人の増加。

③ 市内・市外別患者数

患者数７３１人の内、９２．３％が市内患者。

④ 年齢別患者数、医師判断

５０代が全体の１６．６％と一番多く占め、４０代が１６．１％、２０代から６０代で全体の約７５％となっている。

医師判断については、受診者の７３．７％の方が「本日の受診がのぞましかった」、２５．６％の方が「翌日でもよかった」、０．７％の方は、「前日に他の医療機関で

受診すべきだった」となっている。

⑤ 診療日数・患者数等

1日平均の患者数について、令和2年度が、3.7人で、令和3年度は、5.0人、令和4年度は、8.0人（12月末まで）令和元年度は、合計で1,714人、1日平均で13.6人。以前はインフルエンザの検査件数が多く、令和2年度からは新型コロナウイルス感染症の流行により、休日急病診療所での受診者が減少。令和4年度はコロナ検査の実施により、患者数が増加。

令和4年度は大阪狭山市の患者が15人、富田林市の患者が13人と、近隣の方が多くなっている。

⑥ インフルエンザ患者数

令和4年度は、10月末から新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時検査の実施のため、検査人数が増加した。12月末までで161人に検査を実施し、そのうち8人がインフルエンザA型となっている。令和3年度は119人に検査を実施し、陽性患者は0人、令和2年度は32人に検査を実施し、同じく陽性患者は0人。令和元年度は、798人に検査を実施し、インフルエンザA型が245人、インフルエンザB型が22人。新型コロナウイルス感染症の感染対策により、インフルエンザの感染が抑制されていたが、令和4年度は増加傾向にあると思われる。

⑦ 新型コロナウイルス感染症検査状況

7月は、検査希望人数や陽性者が増加。9月・10月は検査人数・陽性者数ともに減少したものの、11月・12月にかけて検査人数・陽性者数は増加傾向にある。

⑧ 【年末年始】新型コロナウイルス感染症検査状況

休日急病診療所において、発熱等の患者に対し、インフルエンザ検査と同時に新型コロナウイルス感染症の検査を実施。12月30日から1月3日までの5日間で、合計74人に対し検査を実施し、新型コロナウイルス感染症の陽性者は45人。

2月3月についても、引き続きコロナ検査を実施。

(3) 使用薬品について

(藤山委員)

資料としては、令和4年度の単価契約表、休日診療所薬品一覧表、廃棄薬リスト、使用数過少品目。

廃棄薬について、コロナの状況が続いている2019、2020に購入したものが、2022年に廃棄の年を迎えているため、2021年に比べて廃棄数が多くなっている。発熱外来以外の患者が減少しているのも原因のひとつだと思われる。在庫数の見直しを行っている。

年末年始のラゲブリオについて

3名に処方し1人目は高齢者、2人目は血圧・喘息疾患、3人目は心室中隔欠損

症。

ラゲブリオは在庫があるため、処方することができる。17ページには、使用頻度が少なく、多く捨ててしまったもの。しかし必要な薬になるので、在庫は確保しておかなければならない。

(森川委員)

何か意見はあるか。

(船多委員)

ジェネリックの対応について

セレスタミン配合錠は459錠廃棄で、500錠包装されている。通常のアレルギーに加えて渡すことがある。ジェネリックならば100錠包装で渡すことができるので、今後検討していきたい。

(大谷委員)

色々問題が起こっているジェネリックに切り替えるのは問題があるが、しっかり見極めたものであればよいのではないか。

(森川委員)

安定供給されている大手ジェネリック会社もあり、市民の人にも流通しているので、一般市民にも安定供給されているジェネリックなら検討していったいいのではないか。

(4) 障がい児(者) 歯科診療事業の実施状況について

①患者統計資料について

令和4年度は診療日数35日、患者数497人、1日当たりの平均患者数は14.2人。1日16人の予約制で実施しておりますので、毎年の患者数につきましては、大きな変動はなし。497名のうち、289名、58.1%が市内の方。

②年齢別患者数について

受診者の24.5%が40代の方、次に20代の方が16.5%になっており、60歳未満の患者で96.8%となっている。

(森川委員)

何かご質問はありますか。

(中西委員)

近畿厚生局及び大阪府により社会保険医療担当者の新規個別指導について

今回、保健センターの移転に伴い障がい児(者) 歯科の患者の内容の調査があったが、これで監査が終了という意見はもらっておらず、途中の段階。

場所の移転により、監査が入った。しかし近畿厚生局から、初診料算定等の内容の不備についての指摘があったため、カルテ等に内容の詳細を書いたほうがいい。

また、休日急病診療所運営委員会の委員の任期はいつになるのか。

(事務局)

委員長、副委員長の任期について、令和4年10月1日から令和6年9月30日までの2年間です。

(中西委員)

ありがとうございます。もう一点だけよろしいでしょうか。

障がい児（者）歯科に従事されていた歯科医師が障がい児（者）歯科診療中、椅子からこける事態が起これ、今後そのようなことがあった場合、保険等どういう手続きをとればいいのか分からないため、何かあった際の安心材料として手続き等の流れがほしい。

(森川委員)

監査について、医科は僕（管理医師）との都合もあり、まだ行っていない。

2回延期しているが、次依頼があったら行く予定。

事故が起こった時にどうするのか。市から詳しく説明をお願いします。

(事務局)

市の事業で委託に関わらず、事故やケガがあった場合、傷害保険ができるようになっており、毎年保険にも加入している。カバーができるような体制は構築している。

(中西委員)

教育委員会では学校に行くまでに出動保険がある。そういう目に見えるものがあるのではないか。

(森川委員)

安心して働ける環境をつくるのが大切なことだと思うので、そういう環境をつくってほしい。

(事務局)

安心して出務いただけるよう努めていきます。

(森川委員)

他に質問はありますか。

(浦山委員)

保健センター移転について。アクセスが悪いので、行きづらい等の意見があったでしょうか。

(森川委員)

市の方、どうでしょうか。

(事務局)

障害児歯科は予約制で、現在90人の患者がいる。何で来るかという質問に、車は8割、2割は送迎、徒歩、バスと回答。患者すべてに周知した結果、移転で来られなくなった方はおらず、場所についての苦情はなし。

(中西委員)

交通の便はやはり悪い。乳幼児健診、母子検診等が減っており、少子化で人数が減ったのが原因。移転して不便になったこともあるため、国立の看板がわかりにくいいため、矢印の作成を依頼。今はその代わりに立て看板を立てている。とても分かりやすい。今後広報等で周知して欲しい。

(森川委員)

他にありますか。

なければ、次の議題「その他」について事務局から何かありますか。

(5) その他

(事務局)

マイナンバーカードについて

令和5年4月からマイナンバーカードによる保険資格確認の導入が原則義務化されていることから、休日急病診療所においても、認証用機器の導入を行い、システム事業者と契約し、ネットワークへの接続調整を行っている段階。今年度中にはシステムの設定について完了するよう調整しており、マイナンバーカードの保険証利用ができるようになる予定。

(中西委員)

マイナンバーカードに保険証のデータを紐付けしていない場合はどうするのか。

(事務局)

利用方法も含めて、市民の方へのアプローチ方法を考えていく。

(森川委員)

マイナンバーカードを持っていったら、保険証の代わりになると思っており、その場で資格確認ができない場合もあるため、市民の方へ説明できるようにしてほしい。

(中西委員)

広報で載せていったらいいのでは。

(大谷委員)

休診に限らず、全体的に周知していただくようお願いします。

(森川委員)

他にありませんか。なければ私から一点。

発熱外来についてですが、インフルエンザの時期は一日100人近い人がきた。

現在発熱外来のキャパシティがなく、インフルエンザが爆発したら診られないようになるかもしれない。市としての体制を考えていかなければならない。

河内長野市は他の市町村と比べて、早い段階でコロナ検査を実施できたが、それがあから良い状況ではなく、インフルエンザが爆発したら困る状況になることを知っておいてほしい。

他にご意見ありますか。他にご意見がないようなので、これにて休日急病診療所運

営委員会を終了します。